夕刊
磐城新聞
八月十三日發行

定價　一部金五錢　一ヶ月金六拾錢(郵稅拾五錢)
廣告料金　普通欄一行金六拾錢　特別欄一行金九拾錢(場所指定)　五號十二字詰一行一回
編輯印刷發行人　鈴木新
發行所　福島縣石城郡平町田町十六番地　磐城新聞合資會社
登錄受信電略(タイライワキ)　平局私書函第十二號　電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇八五五六五番

天氣豫報
小名濱測候所發表

今晩も明日も南の風晴後曇

北支事件特別稅法施行に就て (一)

平稅務署長談

今期特別議會に於て政府提出に係る北支事件特別稅法案は壓倒的協賛を得て通過しこの八月十二日付の官報を以て公布せられ即日より施行さるることとなりましたに就ては同法の概要を述べ納稅者は勿論一般の方々の熱烈なる御支援の下に同法所期の目的を期し度いと存じます

提案の要旨

扨て本法は何が故に今特別議會に提案せねばならなかつたかと申しますに、北支事件は政府の聲明にもある通り不擴大の方針を堅持して只管支那の反省を促したるに不拘却つて屢々不法行爲を敢てして遂ひに事變は今日の情勢にまで發展し、從つて是が爲めに要する經費も相當多額に上る見込でありまして、是が財源の大部分は公債に求むるのでありますが國際收支の關係其他を考慮致しまするとその一部は此際之を國民の負擔に求むることを適當と認められまして茲に本案を提出せられたことと思ふのであります

本稅の骨子

然らば本稅の骨子はどういふふうになつて居るかと申しますと、即ち

一、所得特別稅
二、臨時利得特別稅
三、利益配當特別稅
四、公債及社債利子特別稅
五、物品特別稅

の五種からなつて居るのでありまして之をも少し詳しく申し上げますと、先づ所得稅に付て增徵することに致しまして第一種所得稅は一割、第二種所得稅は五分第三種所得稅は七分五厘を夫れ〳〵增徵さるることになつたのであります

次ぎに臨時利得稅に付ては法人個人共に其の稅額の一割五分を增徵することと致し會社配當金に付ては配當金中年七分を超ゆる金額の一割公社債利子に付しは國債は利率年四分地方債は利率年四分五厘を超ゆる金額の一割に相當する金額の特別稅を課することとせられたのであります

心理より見たる廣告の訴求 (上)

渡邊のぼる

廣告が如何なる理由のもとに出現するに至つたかに就いては簡單に說明する事が出來ないが、之を一般的商業上の必要から生じて來たものであると解釋するならば、その說明は甚だ容易である樣に考へられる。或は一段と強い意味、即ち廣告學の經濟學內に引入れて說明することも出來るのであらう。然し廣告と言ふ事を研究するに人と人との關係となるが故に廣告を單に商業上又は經濟學上の手段としての說明に終る可きものではなく、人間心理及他の諸科學を併せて考察し以て十分なる完全さを期さねばならないであらう。然し乍ら何によりも先づ廣告學上重要なる要素となるものは訴求である。然らば訴求とは何にか、之れは廣告に依つて被廣告者へ或る種の刺戟を與へその行動的な應答を求めんとするものである。即ち訴求の目的は可能購買客の注意を呼び、興味を起させ、欲望を誘致し、購買的行動に出でしめんとするものである。斯くの如く訴求は一種の刺戟でありますが、それは人に或種の行動を起さしめる刺戟が外的と內的に亘る所の極て複雜な刺戟であります。それ故に訴求の計畫としては人間の肉体的、精神的、神經的或は素質、性格等に深い關係があらねばならないのであります

平局俳黎會八月旬會 (三)

古川瓜泉
釣竿に止まりし蟬の啼き出でぬ
團扇手を休め休めて河鹿ら聽く

市川青山
河鹿なくひそけき村や晝の月
朝顔の明るき椽に憩ひけり

綿貫千檜女
温泉の宿は未だ暮れずに蚊帳吊れり
蚊帳たゝむ手にしむ紺の香りかな

里の處女

鈴木巳智雄

やわらかな風が頰をかすめ
鍬を背負つた里の乙女
やさしき聲にうたを唄うて――
夕月は雲にもれ
錆びた鍬に光を宿す
里はしづかな夜となる

夏初車中偶台

珠雲　小野務平

滿山新綠映嬋妍
窗外聲々啼杜鵑
刈麥野翁鎌影閃
村園十里布靑氈

8月14日
△聯合軍北京を陷る(明治三三)△蔚山沖の海戰(同三七)△お札博士歿(昭和八)

講談　妖刀流轉(ようとうるてん)

(165, 邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

裏劍の名譽手 (二)

駿河の久能山へと東海道を上つて參りまして、同勢が川崎の渡し場へかかつて來た時に、何分竹越兵部小輔の一行が殿樣始め多勢ですから、これが殘らず渡り切るには三船ばかりは專有されて了ひ、その間他の町人其他の旅客は渡る事は出來ない

渡し船は只た一艘、それが三船といふと三往復ですから、一船違ふと道中が半里遅れるといふ位いのもの三船違へば一里半後れる勘定だから、待つてゐる連中は氣が氣でない、こんな事を考へると實に昔の旅行は不便千萬今日とは大違ひ、その便利な今日にも馴れて一寸でも停電があつたりすると愚圖々々いふのは罰當りかも知れもせん

三船乘りたくれては大變だ、今日は藤澤まで行かうと思つたがそれでは戸塚泊りになつて了ふと、愚痴をこぼす者もあれば、阿母の死に目にどうぞ間に合ひ度いものと、靑くなつて焦々してゐる男もあるといふ始末

皆なでワイ〳〵いつてゐる中に、漸くの事で竹越家の同勢が渡り切つて了ふ、今船頭が四船目を出さうとして、待兼ねた連中は先を爭つて乘らうとして居る所へ、バラ〳〵と駈けて來たのが竹越家の家來で坂月九郎、板垣增兵衞といふ兩人

九『コレ〳〵船頭、我々は竹越の同勢だが所用の爲に乘遅れた、早く渡して呉れ他の者は同船ならんぞ』

隨分わからず屋の手前勝手な事をいふ奴も有るものだが、その頃は武士萬能の世の中、殊に主家の威光を笠に着て、理不盡をいふ不心得者も隨分あつたと見へます、幾ら何でも外の町人達が承知しない、ワア〳〵いふのを

增『エヽ汝等は何を騷ぐ、コレ其方へ引込んでゐろ、コレ船頭、早く船を出せ』

船頭も餘りの事にムツといたしもして

船『これだけ待つてゐるに、たつた二人で船を出すとは勿體ない、先刻から待ちかねてゐる人達ですから、何卒一諸に乘せてやつて下さい』

坂『イヽヤ成らん成らん斷じて同船は許さんぞ』

船『仕樣がねゑなア、そんなら旦那斯うして下さいまし、外の者は兎に角として此處に靑い顔をして心配して立つて居る若い男、これは直ぐ河原宿の船宿の倅ですが、奉公先へ赤紙附きの手紙が來て、母親が大病だといふ知らせ、驚いてこれから驅けつける處なのです間に合ふものなら母親の死に目に逢ひ度いといふのは親子の人情、あの男だけ何卒乘せてやつて下さいまし?』

船頭の言葉に力を得て、船舷へ取ついた彼の男

○『旦那樣方何卒九死一生のお願ひで御座います、羽根が有つたら飛んで行き度い程の私の心持、お察し下さつてせめて私だけお船の端へお乘せなすつて下さいまし』

板『エヽ彼是とうるさい奴だ、一旦成らんと云つた以上は何うあつても承知は出來ぬ、エヽコレ船頭、何を愚圖々々して居る、早く船を出せ、早く出さぬかつ』

と何うしても乘せません擴ろなく船頭が、不承〳〵に棹を突張り、一間ばかり船を出した處へ、つか〳〵とそれへ進みましたのが最前からこの體を見て居りました旅の武士

菅の一文字の笠を被り、大小を帶し、足拵へもキリヽとして居る、これなん澤田角右衞門で、何思つたか懷中より、絹の長い打紐のつきました手裏劍を取出すと、今三間はかり漕ぎ出した船を目がけ、ハツト掛け聲して投げつけた

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者　強口唯七郎
自動車部
電話二八二番

砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

お醬油は……ヤマフル
味噌　醬油
たひら正宗
鰹節　食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平市
電話(營業部一〇番 本店二七番)
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

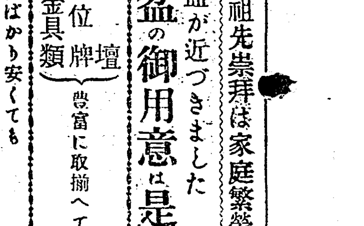
病室增築、手術室完備
產科　婦人科
醫學博士　五十嵐雄二
往診隨時
平市新川町『電話三六九番』

※祖先崇拜は家庭繁榮の礎※
愈々盆が近づきました
◎盆の御用意は是非當店へ
佛壇　位牌　塗佛　佛金具類
豊富に取揃へてあります
値段ばかり安くても品質粗末では勉强でありません
安いだけでは店はハヤラヌ…
◎市制記念奉仕!
◉當店の自動車にて御歸りサービス致します
平市四丁目局通り
佛具造花　山光堂問屋
(電話五五〇番)
四ツ倉支店　博善社
木戸支店　榮玉堂　造花店

互融會事業近況
電話五五五番お忘れなく
事業報告昭和十二年七月中
融通口數　一三四口
融通金額　七、三三〇、〇〇
滿期拂戾金額　二四口
概況昭和十二年七月末現在
滿期拂戾金額　一、〇八〇、〇〇
會員數　七、八〇〇口
會員世帶數　五、一四〇〇戶
積立金額　九七、四九二、三七
融通金額　三九、四四一、〇七
回收金額　四九、六九三、四〇
滿期拂戾口數　三一〇口
滿期拂戾金額　一〇、九二五、〇〇
一、社會公共事業及慈善事業への奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通
太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所　福島縣平市搔槌小路一番地
電話五五五番
小名濱方部　小名濱町古港
湯本方部　湯本町裏町
菊田方部　植田町裏町
相双支部　原町東一番町

夜間診療
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
內科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

磐城の御みやげ品
名物、靈峰羊羹(みやま)　金十錢
姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元　小川郷驛前　平屋賣店



眼鏡專門の店
自覺視力試驗の設備もあります。
御自由に御試し下さい。
各眼科處方調製
玉屋眼鏡店
平市二丁目

レストラン
サロン
食事　喫茶　酒場を兼ねた
平田町　電三五二

銘木(床ノ間材)
天井板、ベニヤ板買ふなら確かに御期待に添ふ良品廉價の
「万」織田材木商店へ
福島縣平市　電話平四六〇番
一覽せる勉强振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ
營業種目　建築木材一式　銘木、ベニヤ板　秋田產杉四分板　建具材・便利瓦

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井坂醫院
平市田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

小料理
淺酌低唱の御相手に藝者さんもはいります。
翠月
平市・仲田町

高久病院
平市田町　(電話五三一番)
內科　醫學士 高久忠
外科　新潟醫學士 赤羽濟
小兒科
花柳病科　藥劑士 佐竹菊雄
耳鼻咽喉科
レントゲン科

銃後運動の統制に 平軍事義會を結成
各種團体代表會同

既報―献金募集の美名にかくれ密かに私腹を肥す非國民的徒輩の一掃に當つてゐる平署並に市役所ではこれに鑑みて銃後運動の統制をはかることとなり在郷軍人分會、愛國、國防兩婦人會其他各種團体が主体となつて平市軍事義會を結成すべく十三日午後一時から市會議事堂にこれら首腦者が會同今後の方針等に關し打合せ結成式をあげた

清宮　風間発雄　酒井歳夫　△第四庄司源藏―

平税務署印紙税檢査
即時補正は處分せぬ方針

平税務署の本年度印紙税定期檢査は來る十六日より左記日割（毎日午前九時―午後三時迄）により頭書町村役場に於て執行さるるが、檢査を受くべき物件は證書（消費貸借に關する證書　約束手形　爲替手形　物品切手　委任狀　營業に關する受取書等）帳簿（判取帳　通帳（日掛　無盡、地代　家賃等の通帳も含む））で當日檢査に提出したるものは假令無印紙による違反の證書帳簿があつても即時補正したるものに限り處分せぬ方針であると

十六日植田（植田　錦　山田　上遠野）十七日湯本（湯本　磐崎）十六日小名濱（小名濱　鹿島　泉　玉川）十七日江名（江名　高久　豊間）十八日勿來（勿來　川部）十九日内郷（内郷一圓）十八、十九、二十日平税務署（平　神谷　飯野　草野　赤井）二十三日四倉（四倉　大浦　大野）二十三日好間（好間一圓）

四倉漁組事務所改築

四倉町漁業組合では多年懸案中にあつた築港第一期工事が十月中旬頃に凡ての工事も完了するので從來の事務所並に市場では狹隘と不便を感ずるので築港の中央に事務所二階建三十七坪、市場百五十坪この總工費一萬四千七百三十圓を以て建築する事に決定、平市堀江工業株式會社に特命請負をさせる事になつたが落成は九月下旬である

捨て子を装ふ新手の物乞ひ戰術
背面に狡智の母暗躍か

今十三日午前九時頃、殘暑に灼ゝる市内某家先の鋪道に踞まつて、悲しげに泣きぢやくる簡單服を着た十一二歳の女兒あるを最寄りの誰彼が不愍に思ひ懇ろにその事情を訪はり訊くと、一緒に來た母親を見失つたと云ふ話が、さまで混雜中の事でも無し何となく辻褄が合はぬので暫らく其儘にして置くと、今度は更に場所を變へて同樣の仕ぐさに出る樣子が益々怪しいので結局胸に一物あつての僞裝愁歎劇では無いかと、尚ほも其れとは無しに少女の擧動に注意してゐるうち何處とも無く立ち去つた。内職品の軍手を澤山包んだ所持の風呂敷包みと云ひ、恐らく態と街上に哀れつぽき姿を曝らし、世人の同情に有りつかんと狡智な母親でも背後に糸を繰る新手の物乞ひではないかと

納涼映畫會
廿七日市役所で

平助成會では社會事業の趣旨徹底を圖るため來る二十七日夜市役所構内で納涼映畫會を催す、一般來觀歡迎

明智淺吉翁慰靈祭

平呉服商組合は此程正式認可を見たので十二日菩提院で組合の功勞者故明智淺吉翁の慰靈祭を兼ねこれが奉告祭執行、柏原組合長の奉告文左の如し

本組合は今玆組合法に依り商工大臣の認可を得權威ある組合組織を見るに至れり之れ畢竟故人明智淺吉翁在世のとき二十餘年に渉り組合を組織し組合長として永年克く統制せられたる依存の賜にして翁の功績偉大なり今日斯業の現況を報告するに當り翁の靈前に花崗石花立壹對を贈り玆に記念の辭とす

。。。。無緣佛供養　市役所では十六日午後二時から八幡小路共同墓地で無緣佛の供養をなす

繪行脚通信
近藤廣記

八甲田山を繞る高原。蔦生十々松の姿態にも高原の放牧にも一種情緒豊かに、蔦温泉周圍の沼澤にも靜寂を見せ、奥入瀬溪流には千變萬化の趣あり十和田湖を船にて探勝せば大町桂月翁をも絶讃せしめたる浦々、岬崖、島の風景實に絶佳。眞に日本八景國立公園の價値を味ひ申し候。小生滯在三週間、繪筆を揮ひ日も尚ほ足らず候へ共、明日發荷峠を越えて毛馬内驛より湯瀬に至り、更に秋田山形を經て仙台に出で歸平の豫定、尚は一週間程旅行を續くべく候　敬具

八月十一日

秋田縣鹿角郡十和田湖畔和井内ホテルにて

甦る百二戸
舊盆を前にして助成會で救ひの手

平助成會では舊盆に際し例年の如くカード階級に温い救ひの手をさしのべるべく過般來各區長により該當者數を調べてゐたが此程纏つた、總戸數百二戸の家族四百八名で一世帶九名が最も多い

。。。。。。敎員体操講習會　十四日から二日間福島に開催の縣下小學校敎員体操講習會に平市内小學校の出席者左の如し

△第一三森芳重　鈴木武雄　△第二高畑正次郎　横須賀俊一　△第三西巻

七夕の賑ひに續き中四日に迫つたお盆
焦躁の裡にも漂ふ活氣

季節は移る

季節の暦は還る――美的ヴアラエテーの集約豪華版として剰す處なく初秋の人氣を喚んだ七夕は愈よけふを名殘りに再た來ん年迄お別れである。後に來るもの即ち舊盆であるが之れとて僅々中四日の目睫に迫つた事とて、毎年の事乍ら各商店に於ける在庫品の現金化、各家庭に於ける中元贈答等、歳暮と竝び稱せらるる年二度の決濟期丈けに娯樂觀賞に重點を置く七夕のそれに比して焦躁の深刻なるものあるは勿論である。殊に商店では物價騰貴前の安仕入れに惠まれて案外多かつたストックの山に奧齒の三枚目からヤニ下ると云つた鹽梅、一方購買力の方も目下の軍需景氣に給料取りのボーナスなども多かつたなどの關係から彼此玆許至つて商況活潑の樣に見受けらるる。山には石炭景氣が刎ね上り、海は大体に於て豊漁、農村は今の處豊秋の見透しがついて各方面上々吉。平和なヂヤンガラ念佛の稽古が冷涼の風に送られて蜩啼く彼方の杜蔭から流れて來る。誠に良さそうな今年のお盆ではある

市制記念將棋大會
廿二日に繰上げ

平將棋互樂會主催東日平通信部後援の市制記念將棋大會は期日を繰り上げて來る二十二日午前八時から名人關根金次郎氏を招き市内五丁目吉田屋樓上に開くが濟通りの參加五十餘名で盛會を豫想されてゐる、優勝者には平市長杯を贈りこの外ＡＢＣの三組に分けて入賞各五名

七夕祭座談會 (1)

出席者

平廣告研究會　内藏武雄　綿引富郎　馬目精一

野麥社　石橋柴子　野本多霞夫　白木英尾

本社　鈴木光二

○七夕祭の本旨

白木　今晩はお忙しいところ有難ふございました。實は柏木さん（本社）が神經痛を病んで來られないやうになりましたから僭越ですが私が進行係をつとめて始めます。平の七夕が名物と云ふ迄になつたのに未だ纏つた觀察や批判と云ふものを聞かれなかつたのでしたが今晩の座談會で今後に何等かの示唆を與へ或は一つの進路を示すやうにしたいものであると思ひます

内藏　そうですね、今年あたりの七夕をみると、出しものが、果して七夕本來の趣旨に適してゐるかどうかと云ふことが、第一問題だらうと思ひますが、單に、人氣集めや人寄せのためばかりを狙へた飾り付けがボツボツ見ゐるやうな傾向になつてますね

馬目　その點は確かにあるね。只、アッ！と度膽を拔かせたいばかりに七夕の本旨を失つたものがあるやうです

内藏　やつぱり、テープやくす玉で飾るのが眞の七夕祭りだと思ひますが――

馬目　それは、つまり、竹を主体とするか、建物を主体とするかによつて決まるものであつて、どちらかと云へば、竹のみで飾るのは簡單と言へば言へますね。建物が主体になると、常陽銀行のやうに難かしくなつてくる

石橋　私んとこは建物があの通りだから竹ばかりでは、とても餘白が出來て見映えがしないのでどうしても骨が折れるのですよ。去年なんか笹竹の飾りもしたんですが、それが反つて邪魔になつてしまつたので、今年は先づあんなものになつたのですが――

内藏　然し、あれは、バックについて、もすこし研究の餘地があるのでないでせうか。提灯をさげる棒の代りに、笹竹を使つたらどうだらうか

石橋　どうも、細かい方までには氣が廻らないもんで――（笑聲）

○今年の特徴について

白木　一体に、今年は出しものが殖えてるやうですが――

綿引　これは、仙臺の七夕を見ると、どうしてもそうなつてくるんですよ、こんなに、出しものばかりになつてしまつては、吹ながしが尠なくなつて街全体からみれば寂しくなつてきたやうな感がする、七夕の本來から云へば、矢つぱり吹きながしがなくては困るね。僕はかう考へてるんですが――。この吹きながしも、各町内がそれ〴〵町内毎に同じやうな吹きながしを作つて、町全体としての七夕色彩をみるやうにしたらどうかと思つてるんです。（十二日夜於市内松本樓）

人出實に五萬
七夕景氣沸騰

七夕第二日の昨夜は出た〳〵。近在からの人は早くも晝間から押しかけて街を埋め、臨時列車は超滿員。夜の八時頃の本通りは身動きも出來ぬ見物人の奔流だ――この日平驛の乘降はゞりに二萬四千三百十五名で恐らく同驛開設以來の快記録だと云はれ人出は實に五萬と註せられる豪勢さ。平署で取扱つた迷兒も前日の二名に比し左の如く一躍十一名に殖えたと云ふ

△草野村下神谷新妻辨長男哲夫（五）△好間村上野鈴木正雄長男正巳（八）△湯本町台の山渡邊光春四女ミサ子（10）△赤井村新町河村愛吉次男和志（九）△市内南町佐藤長松長男武（四）・△湯本町八仙齋藤信一二女千鶴子（八）△草野村下神谷新妻タケ長男光男（五）外三名

平商庭球部遠征
關東北大會へ

平商庭球部では來二十日から二日間仙臺市に開催の關東北中等學校選手權大會に出場することとなり目下殘炎の下猛練習を積んでゐる　過般の縣下大會では准決勝まで進んで惜しくも敗れたとは云へ必勝の意氣込みは素晴らしい、選手左の如し

北島（友部）　歌川（志賀）

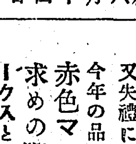
若人よ、戀はすまじ
邪道に踏み込んだ資産家の長男坊

昨報―茨城縣多賀郡河原子町の海水浴場で宇都宮市今小路饅頭製造業鈴木篤司郎のトランクから現金二十八圓餘を盗んで十一日夜湯本町に入り込み平署に擧げられた宇都宮市中河原町吉澤唯雄（三）は引續き取調べの結果女故の犯行と判つた　宇都宮でも中流以上の資産家に生れた唯雄は去る六日茨城縣助川町に避暑中同町カフエー梅園方女給本郡石住村生れ尾澤チヨ子（一九）と親しくなり其後同郡河原子町に移つてからも女の許に通ひつめ最近女から一緒に逃げて呉れとせがまれて同宿人から路用の金を盗んだがそのうち女が同所から居無くなつたので血眼になり、何でも郷里の石住村に歸つたらしいと聞いたので矢も楯もたまらず、戀し女を追つて來たもの取調べを受けながらも『チヨ子は決して自分を裏切るやうなことはない……』と熱いところを述懐に及んでゐると云ふ

勿來小學校長

勿來尋常高等小學校長五十嵐新平氏は去る五日腦溢血で卒倒、療養中十日午後三時逝去、葬儀は十五日午後二時から校葬により同校々庭で執行、享年四十九　氏は郡山市出身明治四十四年本縣和田校を振り出しに豊田、喜久田、草野の各校長を歴任今日に至つた人、各方面からその死を惜しまれてゐる

十四日（小名濱測候所發表）
滿潮　前九、三五　後八、二〇
干潮　前三、一〇　後一、三五



舊七月九日　土曜　癸酉　先負　除　柳宿　新八月十四日

評判定廳　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　事業着々として進行し大に功績を擧ぐべし▲二黒　商賣繼引に喰違あり殊に遊行は慎むべし▲三碧　定業に專念すれば利益相當に上る平安の日▲四綠　平運を保てども金錢出入には注意すべき日▲五黄　きんこん事に當るべしと雖新事は計畫す可らず▲六白　衰運甚しく大害なかるらん萬事進むに凶なり▲七赤　浮沈甚しく慎重ならざれば過ち多かるべし▲八白　榮えう榮辱は一時の夢と消ゆべし病盜難注意▲九紫　大望はさせつするも日用の事は順調に進展す

廣告

平市南町　根本産婦人科　電三四

平市新川町　木村病院　電話一六七番

お盆提灯大賣出し　一見涼風誘ふ優秀品　特製　新型行燈　飾り型は數百種も御座います。御一覽下さい。
尚本年度より製造元にて新製品は昭和十二年製の責任マークを入れてあります。御注意下さい。
平二丁目　福多屋

桂照院清光妙榮大姉新盆に候處時節柄提灯其他供物御辭退申上度右不悪御了承願上候　敬具
平市白銀町　高橋龜松　大原虎二

常照院新盆に相當候處時節柄提灯其他供物等御贈與の儀御辭退申上度不悪御了承願上候
平市二丁目　坂田藤助

お新盆提灯に御注意!!!
近年各地に於て再製提灯が市場へ出る爲めお贈りの方も頂いた方も誠に迷惑され又失禮にもなりますので製造者の間で相談の上今年の品物へは必ず　昭和十二年製　牛印　赤色マークを入れてあります。御買求めの際は必ず御忘れなく昭和十二年製マークスと御指命下さい。
昭和十二年八月　提灯同業組合

亡妻儀新盆に相當り候處誠に勝手ながら時節柄提灯その他御供物等御辭退申上度此段謹告候也　敬具
平市古鍛冶町七　久保木林之助

内臟外科一般　外科花柳病科（入院隨意）
平市六丁目（橋際）　木村外科醫院　電話三〇九

カメラ材料　藥品百貨
平電話3番　西村屋藥局